

⑱生産者が自ら施工する簡易な茶園整備

【株式会社 秋田製茶（袋井市）】

基盤整備

生産性向上

■活用した事業

「令和5年度 農業基盤整備促進事業」を活用し、小区画不整形の圃場を集積・集約し、自力施工により生産効率の高い茶園に単年度で整備。

■経営の概況

当社では、70haの自社管理地と26軒の茶農家が育てた生葉を、袋井市・掛川市の2つの製茶工場で加工し、「深蒸し茶」をはじめ「和紅茶」など多様なお茶を製造・販売している。また、大手飲料メーカーのドリンク専用茶葉の新産地づくりにも参画し、生産が難しくなった茶園を集約・整備することで、規模拡大に取り組んでいる。

■取組内容

・基盤整備

高齢化により近隣の茶農家から借り受ける園地の多くは、小区画で畝の向きも不揃いなため、生産効率が低い状況であった。そのため、畑面の整地や畝向きの修正など、簡易な基盤整備を自ら行い乗用型管理機が活用できる環境づくりに取り組んだ。

整備前は、対象園地が17筆に分かれていたが、畑面の傾斜がゆるく農道も確保されていた。

本地区は県が事業主体となり、生産者自身が重機等を使用して直接、圃場整備を行った。

このため、単年度で完了し早期の効果発現につながった。

現在、園地には、多収性品種の「つゆひかり」を栽培し、効率的な生産を実現している。

・今後の取組

茶農家の高齢化により耕作放棄地が増える中、まとまった園地の借り受け依頼があれば、農地中間管理機構の制度を活用し、簡易な基盤整備を行いながら茶園の規模拡大を進めていく。

基盤整備前



基盤整備後

